



発刊■2009. 3. 31

発行■下関市立大学附属地域共創センター

下関市立大学鯨資料室 1周年記念シンポジウムを開催しました

平成 19 年 11 月 14 日に全国の大学で初となる鯨資料室が本学に開設され、本年 11 月で 1 周年を迎えました。これを記念し、11 月 8 日(土)本学において「下関市立大学鯨資料室 1 周年記念シンポジウムー鯨資料収集のあり方と大学の役割・可能性を探るー」を開催いたしました。

このシンポジウムは、鯨資料室が開設後 1 年を経過したことによる再度の本学鯨資料室の設置意義を大学内外に問い、本学から「鯨問題、鯨資料収集のあり方・問題点、大学の役割」についての問題提起と発信を行うとともに、我が国に、鯨のみを対象とする学会が無いことから、将来的に学会設立実現に向けての布石を打つことを目的として開催されました。



シンポジウムの様子

会場には本学学生だけではなく、市内外から鯨に関心のある方が約 130 名集まりました。今後このようなシンポジウムや研究会を定期的で開催し、第一段階として本学に鯨研究会を設置したいと考えております。また、「鯨資料室だより」やホームページを通じて、鯨に関する資料室の調査結果、収藏品データ等の情報発信を行っていきたいと考えています。

プログラム

■ 基調講演



「今後のわが国の捕鯨」

中前 明（IWC日本政府代表）

捕鯨における国際交渉の最前線で、鯨類資源の持続的利用を主張する日本政府の立場と捕鯨を取り巻く最新の国際情勢をわかりやすく解説されました。



「捕鯨問題の現状と下関市立大学鯨資料室に期待すること」

大隅 清治（(財)日本鯨類研究所顧問）

捕鯨問題の現状を解説するとともに、下関市立大学の鯨資料室が国内における鯨類社会科学系の研究拠点や人材育成の教育機関となることを期待するコメントが寄せられました。

■ 報告



「下関の鯨産業遺産とその現状」

岸本充弘（下関市立大学委嘱研究員）

下関市内に所在する旧大洋漁業本社等の鯨産業遺産等の現状について解説し、その保存・活用方法と鯨による地域振興についての問題提起を行いました。



「生鮮鯨肉の棲み分け流通

ー福岡市中央卸売市場と下関漁港地方卸売市場ー」

遠藤愛子（海洋政策研究財団研究員）

福岡中央卸売市場と下関漁港地方卸売市場におけるゴンドウ等の生鮮鯨肉流通の棲み分けの現状と、その背景にある食文化等を詳細に分析した報告を行いました。

■ シンポジウム

「鯨資料収集のあり方と大学の役割・可能性を探る」

パネリスト：大隅清治、中前明、遠藤愛子、岸本充弘



コーディネーター：加藤秀弘（東京海洋大学教授）

各講演・報告者の内容を検証し、下関と鯨の関係を探りながら鯨資料室のあり方、鯨資料室の目指すものについて議論を深めました。また、鯨の社会科学学会の設立を視野に入れながら、専任教員、研究員の配置や研究の実績を積み重ねながら将来構想として鯨研究センターの立ち上げまで踏み込んだ中身の濃い議論になりました。

連載第2回 下関と鯨を検証する②

地域共創センター委嘱研究員 岸本充弘

下関駅西口に出たところに“鯨のまち下関”の象徴とも言える建物があります。それが旧大洋漁業本社ビルです。下関市が発祥地である旧大洋漁業(株) (現・(株)マルハニチロホールディングス) はかつての我が国3大捕鯨会社の1つであるとともに、我が国最大の捕鯨会社でもありました。現在も残る旧大洋漁業本社ビルは昭和11年3月31日に竣工し、昭和24年6月に本社を東京に移すまで本社ビルとして使用され、その後も大洋漁業下関支社として、また平成15年までマルハ下関総務課事務所として使用されていましたが、現在は建物の老朽化のため売却に出されており、その動向が注目されています。



旧大洋漁業本社ビル(下関市竹崎町)

先般、(株)マルハニチロホールディングスと現在この建物を管理している(株)エヌ・エー・コーポレーションのご協力により内部の写真撮影を行うことができました。また、竣工当時関係者に配布された写真付絵葉書のコピーも入手することができましたのでその一部をご紹介します。



旧大洋漁業下関支社長室

現在内部は事務机等そのままの状態で見られており、すぐに事務所として使用可能な状態で置かれています。階段の手すりや部屋の装飾等竣工当時のままの状態



4階旧食堂

よく保存されており、築72年も経過していることを感じさせないものでした。また、竣工記念に配布された絵葉書からは、当時の和室であった社長室の状況、戦前の事務所内部、食堂等の様子をはっきりと確認でき、建物内部は一部増改築がされているものの、現況と殆ど変わっていないことがわかりました。建物の存廃については民間所有の建物であること等保存についてはかなりクリアすべき

課題が山積していますが、“鯨のまちのシンボル”として、どのような形でも後世に残してほしいと思うのは私だけではないと思います。



左上:株式会社林兼商店全景

右上:1階事務室

左下:2階社長室

右下:2階重役室(いずれも昭和11年撮影)

鯨資料室トピックス

背美鯨の髭を展示しています!!

昨年12月に、東京の共同船舶(株)ならびに日本捕鯨協会より鯨関係の多くの資料約1,000点の寄贈を受けました。その中には引退した目視採集船(捕鯨船)の設備等の青焼図面、航海日誌等大変貴重なものが含まれています。現在順次整理しており、近いうちに展示できるのではないかと思います。その中でも大変貴重な“背美鯨の髭”の保存・展示作業が終了し、現在先行して鯨資料室に展示しています。ぜひご覧ください。



鯨資料室の背美鯨の髭

保存・展示作業が終了し、現在先行して鯨資料室に展示しています。